



50周年
ありがとう

もくじ

- お祝いの言葉 2・3
- 総会報告 4・5
- 市町村委員等研修会 6
- スキルアップ研修会 7
- 事務局からのお知らせ 8



愛知県社会福祉協議会
会長 後藤 澄江

愛知県においても、医療・介護人材の確保や在宅支援体制の整備が喫緊の課題となっております。このような中、在宅ケアの最前線であるとともに、「その人らしい暮らしを最期まで支える伴走者」でもある貴協議会に寄せられる期待は大きく、その役割の重要性がますます増しております。

私ども愛知県社会福祉協議会といたしましても、こうした変化の中で、立ち止まることなく、地域福祉の中核的な担い手として、一層の体制強化を図ってまいります。そして、市区町村社協、社会福祉施設、民生委員・児童委員、福祉関係機関・団体、並びに行政、ボランティア市民活動団体等とともに連携を深め、「福祉力」「地域力」の向上に努め、「あ・い・ち・ふ・く・し(あんしんして・いきいきと・ちいきで・ふつうに・くらせる・しゃかい)」の実現を目指し、貴協議会を始め福祉関係者の皆様方とともに、邁進する所存であります。

最後に、貴協議会が今後ますます発展されますとともに、会員の皆様方のご活躍をご期待申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。



柳城短期大学 保育科
教授 大崎 千秋

愛知県ホームヘルパー連絡協議会創立50周年ならびに「つどい100号」の創刊を迎えられ、誠にありがとうございます。この長きにわたる歩みは、関係者の皆さまのたゆまぬ努力と情熱の賜物であり、地域福祉の発展に多大なる貢献をされてきたことに深く敬意を表します。

昨今の訪問介護も大きな変革期を迎えています。従来の利用者の自宅に訪問するサービスから住宅型住まいに訪問するものまで、昔では想像もつかないスタイルへと発展をしています。また、そこに働くホームヘルパーも多様化しており海外にルーツを持つ方がたも増加傾向にあります。

ホームヘルプサービスがどのように変化しても、私たちホームヘルパーは利用者の生活を住まいで支えるプロフェッショナルであることには間違いはありません。

愛知県ホームヘルパー連絡協議会がこれからも、さらなる発展とご活躍を心よりお祈り申し上げます。



株式会社ねこの手
代表取締役 伊藤 亜記

愛知県ホームヘルパー連絡協議会設立50周年、機関誌「つどい100号」に際し、心よりお慶び申し上げます。

前会長でもある神谷顧問には、長年ご家族共に多大なるご支援を賜り、そのご縁で、小原会長にも大変お世話になり、現在も愛知県ホームヘルパー連絡協議会のお手伝いをさせて頂いております。

このような長いご縁の中で、神谷顧問が全国ホームヘルパー協議会の会長をされておられた際に、厚労省に沢山の根拠資料をご提示になり、「訪問介護のバイブル」とも呼べる通知の「老計第10号」が、2018年に一部改正されたことは、2000年から施行された介護保険の訪問介護の歴史においては、大きな変革の一つでした。

2025年4月からは、外国人介護人材が訪問系サービスに条件付きで従事できるようになりましたが、「国境を超えた人材」を今後、持続可能な訪問介護において、皆さまが育成の仕方を学ばれ、ご活用されることとなります。

介護保険制度の掲げる「介護の社会化」のためにも、愛知県ホームヘルパー連絡協議会の役員、会員の皆さまの学び合い、高め合いの結束を更に高められることを心から願い、お祝いの言葉とさせていただきます。

愛知県ホームヘルパー連絡協議会

設立50周年を祝して



愛知県ホームヘルパー連絡協議会は、昭和50年に家庭奉仕員連絡協議会として設立され、本年で50周年を迎えました。この長きにわたる歩みは、会員の皆様をはじめ、多くの関係者の皆様の温かいご支援、そして諸先輩方のご尽力の賜物であり、心より深く感謝申し上げます。

在宅介護の最先端を担うヘルパーは、専門職としての技術を磨きながら、時代の変化に応じて支援の在り方も変化してまいりました。近年では、労働人口の減少に伴い、介護分野にもICT化やDXの導入が進み、業務のペーパーレスや電子記録の活用、さらにはオンライン研修の普及など、働き方も大きく様変わりしております。

しかしながら、ヘルパーがその方の「住み慣れた暮らし」に寄り添い、「その方らしい日常」を支えるという本質的な姿勢は、50年前も今も、そしてこれからも変わることはありません。

50年前、訪問先でスマートフォンをタップして出勤記録を残す未来を誰が想像できたでしょうか。そして、これからの50年、私たちの支援のかたちはどのように進化していくのか・・・その可能性に胸が高鳴ります。

これからも、支援の本質を胸に、次の50年へ歩み続けてまいります。



愛知県ホームヘルパー
連絡協議会

会長 小原 修子

このたび、愛知県ホームヘルパー連絡協議会が設立50周年を迎えられ、併せて機関紙「つどい」が第100号を発行されますこと、心よりお祝い申し上げます。

長きにわたり地域の在宅ケアを支えてこられた皆さまのご尽力に、深く敬意を表します。

ホームヘルパーは「在宅ケアの最前線と最後の砦を担う」大切な存在です。日々の支援の積み重ねが、自立した在宅生活を続けたい、人生の最期を自宅で迎えたいと願う利用者とそのご家族の生活を支え、社会との壁を和らげる架け橋となっています。厳しい社会状況や制度の変化の中でも、専門職として誇りをもち、前を向いて歩みを続ける皆さまの姿勢は、全国の仲間にとって大きな励みです。

今後も地域に根ざし、一人ひとりの利用者の暮らしを大切にする支援が広がり続けることを、心より願っております。愛知県ホームヘルパー連絡協議会のさらなるご発展を祈念し、お祝いの言葉といたします。



全国ホームヘルパー協議会

会長 田尻 亨

第5 関係機関・団体との連携強化

- (1) 全国ホームヘルパー協議会協議員総会(東京都)
第1回 令和6年5月14日 【WEB開催】
第2回 令和7年3月4日 【WEB開催】
- (2) 全国ホームヘルパー協議会常任協議員会(東京都)
第1回 令和6年8月8日 【WEB開催】
第2回 令和6年10月1日 【WEB開催】
第3回 令和7年2月4日 【WEB開催】
- (3) 全国ホームヘルパー協議会ホームヘルプの質を高めるオンラインサロン(東京都)
第1回 令和6年9月12日 【WEB開催】
第2回 令和7年3月26日 【WEB開催】

第6 表彰事業の実施

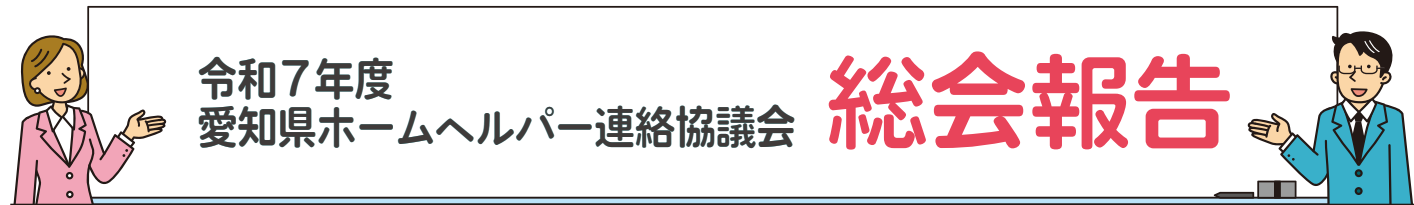
多年にわたりホームヘルパー事業の推進に尽力し、功績が顕著な会員に対し、会長表彰状及び会長感謝状を贈呈した。

会長表彰：なし 会長感謝：3名

第7 共同募金運動への協力

愛知県共同募金会提唱の「クオカード」に協力した。
協力枚数 523枚(クオカード523枚)

参考 令和5年度：653枚(図書カード225枚、クオカード428枚)／令和4年度：720枚
令和3年度：795枚／令和2年度：740枚／令和元年度：768枚／
平成30年度：795枚／平成29年度：830枚／平成28年度：1,002枚



令和7年度 事業計画

重点事業

- ホームヘルパーの専門職集団としての組織強化を一層図り、会への参加促進を図る。
- 高齢者・障害者等の利用者一人ひとりの状況を把握し、利用者が住み慣れた地域で暮し続けることができるように「生活を支援する専門職」としてのホームヘルパーの資質向上を図る。
- 利用者の自立支援・重度化防止について考えるとともに、より質の高いサービスを提供できるように、地域における関連機関との連携に努める。
- 大規模災害の教訓を活かし、「ホームヘルパー」として災害時対応を想定して、日ごろの地域との連携強化に努めていく。
- 感染症のリスクに備え、医療機関との連携を強化し、日ごろから予防や対応策について検討、整備するよう努める。

1 会の運営と組織強化

- (1) 役員会の開催
(2) 委員総会の開催 令和7年5月21日(水)
(3) 研修・調査広報の各委員会の開催
(4) 市町村委員ブロック会議の開催 令和7年5月21日(水)
(5) 監事会の開催 令和7年4月25日(金)
(6) ブロック別研修会への助成

2 調査・研究事業

- (1) 福祉制度を理解するための研修会の開催
(2) 利用者の自立支援を目指したサービス提供のための調査研究
(3) ホームヘルプ活動に関する資料・情報の収集と研究

3 研修事業

- (1) 市町村委員研修会 令和7年5月21日(水)
(2) スキルアップ研修会 令和7年8月22日(金)
(3) サービス提供責任者研修会兼東海北陸ブロック研修会 令和7年11月21日(金)
(4) 現任研修会 令和8年2月
(5) 県内ブロック別研修会 令和7年5月～令和8年3月

4 広報事業

- (1) 機関紙「つどい」電子版(PDF)の作成 年2回
(2) 2024年改訂版訪問介護マニュアルおよび老計10号の会員・会員外に対する販売促進

5 会議等への参加と関係機関・団体との連携強化

- (1) 全国ホームヘルパー協議会関連会議等への代表者並びに参加者派遣
・全国ホームヘルパー協議会協議員セミナー 未定〈東京都〉
・全国ホームヘルパー協議会協議員総会(オンライン) 未定〈東京都〉
・全国ホームヘルパー協議会常任協議委員会(年4回)
・全国ホームヘルパー協議会正副会長会議(年1回)
(2) 愛知県社会福祉協議会等関係機関・団体との連携
(3) 愛知県介護福祉士会等各専門職団体との連携

6 表彰事業の実施

7 共同募金運動への参加協力

8 大規模災害の教訓を活かした災害時対応と広域支援体制の検討

令和6年度 事業報告

事業実施状況

第1 会の運営と組織強化

- 本会の組織強化とホームヘルパー全員参加の推進に向け、次の会議を開催し会務を運営した。
- (1) 役員会等の開催 4回
・正副会長会議 令和6年4月24日(水)
・第1回役員会 令和6年5月22日(水)
・第2回役員会 令和6年9月25日(水) 【WEB併用開催】
・第3回役員会 令和6年11月14日(木)
- (2) 委員総会の開催 1回
令和6年5月22日(水)
・第1号議案 令和5年度愛知県ホームヘルパー連絡協議会事業報告(案)について
・第2号議案 令和5年度愛知県ホームヘルパー連絡協議会収支決算(案)について
・第3号議案 令和6年度愛知県ホームヘルパー連絡協議会事業計画(案)について
・第4号議案 令和6年度愛知県ホームヘルパー連絡協議会収支予算書(案)について
- (3) 2024年改訂版サ責とヘルパーのための訪問介護マニュアル策定委員会の開催 4回
2024年の介護報酬処遇改善加算の法改正に伴い、会員よりマニュアル策定委員を選出し、訪問介護マニュアルの内容の見直しと改訂を行った。
- (4) 監事会の開催 1回
令和6年4月24日(水)
- (5) 組織強化活動
ア 会員 127名(40事業所)
なお、会員外に対しても研修等への参加促進を図った。

<参考・会員の動向>

令和5年度	会員数	137名	(46事業所)
令和4年度	会員数	160名	(48事業所)
令和3年度	会員数	160名	(48事業所)
令和2年度	会員数	164名	(49事業所)
令和元年度	会員数	173名	(50事業所)
平成30年度	会員数	195名	(54事業所)
平成29年度	会員数	216名	(56事業所)
平成28年度	会員数	224名	(60事業所)
平成27年度	会員数	238名	(64事業所)
平成26年度	会員数	247名	(65事業所)
平成25年度	会員数	255名	(67事業所)
平成24年度	会員数	268名	(69事業所)
平成23年度	会員数	279名	(75事業所)
平成22年度	会員数	290名	(78事業所)
平成21年度	会員数	317名	(85事業所)
平成20年度	会員数	343名	(85事業所)

イ 県内ブロック別等研修会を開催し、県内各地区の交流促進とスキルアップを図った。(詳細は第3の(5)に別掲)

第2 調査研究事業の実施

- (1) 福祉制度を理解するための研修会の開催
(2) 利用者の自立支援を目指したサービス提供のための調査研究
(3) ホームヘルプ活動に関する資料・情報の収集と研究

第3 ホームヘルパー研修会事業の実施

- (1) 市町村委員等研修会
令和6年5月22日(水)
・参加者数 41名
・内容
講義 「高齢者等を狙った犯罪対策について」
講師 愛知県警察本部 生活安全部 生活安全総務課 防犯情報係 山田 綾野 氏
- (2) スキルアップ研修会
令和6年8月27日(火)
・参加者数 37名(会員31名、会員外6名)
・内容
【講義】 「介護報酬処遇改善加算制度改正に関する研修会」
講師 愛知県ホームヘルパー連絡協議会 顧問 神谷 洋美 氏
【意見交換会】 「介護報酬処遇改善加算制度改正に関する意見交換会」
- (3) サービス提供責任者等研修会(兼東海北陸ブロック研修会 石川県主催)
令和6年11月22日(金)(会員20名、会員外5名)
・参加者数 開示なし
・内容
講義① 「能登半島地震…その後」
講師 (福) 輪島市福祉会 あての木園 訪問介護センター 所長 増田 美奈子 氏 ほか
講義② 「能登沖災害からBCPを見直そう!研修会」ほか
【WEB併用開催】
講師 株式会社ねこの手 代表取締役 伊藤 亜記 氏
愛知県ホームヘルパー連絡協議会 会長 小原 修子 氏、顧問 神谷 洋美 氏
- (4) 現任研修会
令和7年2月20日(木)
・参加者数 29名(会員26名、会員外3名)
・内容
講義 「腰痛出前講座 介護職員の腰痛予防研修」
公益社団法人愛知県理学療法士会 産業保健部 部長 古田 博之 氏、部員 田上 裕記 氏
演習 「腰痛出前講座 介護職員の腰痛予防研修」
公益社団法人愛知県理学療法士会 産業保健部 部長 古田 博之 氏、部員 田上 裕記 氏

(5) 県内ブロック別等研修会

No.	ブロック	開催日	テーマ	開催地	参加人数
1	海 部	12/21(土)	利用者様との関係を俯瞰できていますか ～ストレスを乗り越えて仕事をしていくために～	弥富市	27
2	尾西1	9/21(土)	「理念と虐待」について	一宮市	30
3	尾西2	11/16(土)	「介護と接遇マナー」	豊山市	37
4	尾 北	10/5(土)	「障害ある当事者からのメッセージ (ホームヘルパーを利用して思うこと、 将来に対する悩み、不安に思うこと)」	岩倉市	41
5	尾 東	11/17(日)	「身体の保清に関する介護技術」 ～清拭・足浴・手浴～	小牧市	18
6	知 多	1/25(土)	「口腔ケアの基礎と実習」	東海市	24
7	豊 田	10/27(日)	「訪問時、地震や火災が起こった際の 対応と防災について」	みよし市	18
8	西三河1	2/1(土)	「ホームヘルパーのための総合安全対策」	高浜市	33
9	西三河2	1/18(土)	「高齢者の皮膚の特徴とスキンケア」	西尾市	40
10	奥三河	11/16(土)	「ヘルパーのためのリフレッシュ・指ヨガ」	設楽町	16
11	東三河	2/15(土)	「在宅での緊急時の対応について」	田原市	33

<参考> 令和5年度11市町村373名

第4 広報事業の実施

- (1) 機関紙「つどい」の発行
機関紙「つどい」をPDFで作成し、電子版に掲載及び会員へ電子メールにより配信した。
第98号(令和6年12月発行)・第99号(令和7年3月発行)
- (2) ホームヘルプ活動の普及に関する広報活動
「2022年改訂版訪問介護マニュアル」販売部数 0部
「訪問介護マニュアル老計10号」販売部数 0部
- (3) サービス提供責任者支援ハンドブックの会員・会員外に対する販売促進
「2022年改訂版サービス提供責任者支援ハンドブック」販売部数 0部

スキルアップ研修会

令和7年8月22日(金)開催

介護技術向上について

～食事介助・衣類・おむつ着脱等のスキルアップ～

講師 柳城短期大学 保育科
教授 大崎 千秋 氏



「介護に関する学びを通して感じたこと」

今回の研修を通して、介護における細やかな配慮や知識の重要性を改めて実感しました。座学だけでなく実技を多く取り入れた内容だったことで、実際に体感しながら学べたことで理解が深まり、技術や知識が自分の中にしっかりと定着する感覚がありました。特に自分が介助される立場を体験することで利用者様が日常的に感じている不安や心地よさを実感できたのは、非常に貴重な体験でした。これは普段の業務で気づきにくい視点であり、介助時の気配りや配慮の大切さを強く感じました。



食事介助では、ストローの使い方、嚥下の過程やスプーンの使い方ひとつが安全な食事に直結することを学びました。小さな工夫や声掛けが、誤嚥予防につながり、利用者様の安心感や自立支援にも影響することを実感しました。また、食事は栄養補給だけでなく、利用者様にとって「楽しみ」や「生きがい」の時間であることを再認識し、より丁寧な支援を心掛けていきたいと思いました。

さらに、オムツ交換では、羞恥心に配慮しながら迅速かつ丁寧に行うことの重要性を学ぶとともに、交換時の声掛けや動作の一つ一つに対する心配りが大切だと感じました。パッドの構造についても新たな発見がありました。現在のパッドは何層にもなっており、素早く吸収しながら表面はさらさらの状態を保つなど、機能性が非常に高く、製品の進化が介護の快適さにもつながっていることを実感いたしました。



一方で、現場ではベテランヘルパーが多く在籍している反面、新しい技術や知識のアップデートがされにくくなっている現状が課題であると感じています。今回のような学習の場を通じて、新しい知識を得て実践につなげていくことの重要性を再認識いたしました。

今後は、今回学んだことを自分の中に留めず、事業所内でも積極的にアウトプットし、職員間で共有しながら、より良い支援に結びつけていきたいと思っています。

市町村委員等研修会

令和7年5月21日(水)開催

「南海トラフ地震への備え」

～備えあれば憂いなし～

講師 愛知県防災安全局防災部 防災危機管理課
啓発グループ 岩田 峻平 氏



「南海トラフ地震への備え～備えあれば憂いなし～を受講して」



共助 身近な支援を必要とする要配慮者への心くばりを

一人暮らしや寝たきりなどの高齢者、障害を有する方は、地域の支援が必要です。災害時の情報把握や避難、生活の確保が的確、迅速に行いにくい立場に置かれています。日頃から声掛けなどを行い、顔の見える関係を築き、地域で助け合える環境をつくっていきましょう。

高齢者・傷病者 ●援助が必要なときは、複数の人で対応する。 ●急を要するときは、むもなどで背負い安全な場所まで運搬する。	耳が不自由な人 ●話をするときは、まっすぐ顔を向け、口はなるべく大きく動かして話す。 ●筆談(筆記法)は手のひらに指先で文字を書くやり方でもよい。
肢体の不自由な人 ●車いすは、階段では必ず2人以上、できれば3～4人で援助する。 ●上がるときは前向きに、下がる時は後ろ向きにして恐怖感を与えないように。 ●とっさの脱出、避難の際に要配慮者1人に対して、支援者が2人以上いるとは限らない。むもなどで、背負い、支援者の両手は自由がきくようにする。	目の不自由な人 ●杖や杖を持った手をひっぱったり、後ろから押したりしない。 ●半歩前に立ち、ひしの上を軽く持つてもらい、ゆっくり歩く。 ●方向や目の前の障害物の位置などは、棒針の文字盤の位置を想定して伝える。

やさしい防災・減災備え(そなえる)ガイド(家庭編)

やさしい 備えろ ガイダンス

このパンフレットでチェックして、いつ起きてもおかしくない災害に強い、自分から備えよう。

愛知県 愛知県 愛知県防災安全局

https://www.pref.aichi.jp/soshiki/bosai/yasashikateihen.html

岡崎市社会福祉協議会 額田支所 市川 佳代

愛知県防災安全局の岩田氏より、過去に日本で起きた巨大地震のデータから、南海トラフ地震がいつ起きてもおかしくないとの話を聞き大きな不安を感じました。

令和5年6月の豪雨では自事業所の所在地である額田地区でも河川の氾濫や決壊で多くの方が被害に合っています。災害は特別なことではない事を再度認識しました。

講義の中で「広域地震の場合すぐに支援が来ない場合がありトイレでは5日間×人数分の確保が必要」との話がありました。

ヘルパーは利用者様が休む寝室の位置、常に過ごす居室や家具の配置などを良く知っている支援者です。

利用者様の生活に一番近いところで支援をしている私たちにできる事は何か？改めて考え共有する機会になりました。



事務局からのお知らせ

愛知県ホームヘルパー連絡協議会50年のあゆみ

平成										昭和		年																		
8	7	4	3	27	20	18	16	15	14	12	8		7	6	4	2	元	63	62	61	60	56	55	54	51	50				
第十二代会長 神谷洋美氏就任 全国ホームヘルパー協議会会長 第十三代会長 樋口ひとみ氏就任 (介護保険法改訂) 第十四代会長 小原修子氏就任 東海北陸ホームヘルパー研修会愛知県開催 東海北陸ホームヘルパー研修会愛知県開催 (会員三八市町村 一二二名) 五〇周年記念事業の実施						第七代会長 宮田さち子氏就任 (介護保険制導入) 第八代会長 今西美月氏就任 第九代会長 松井恵子氏就任 (精神障害者ホームヘルプサービス開始) (支援費制度導入) 第十代会長 甲斐綾子氏就任 三〇周年記念事業の実施 (会員七十一市町村 四五一名) 第十一代会長 犬飼智子氏就任 (障害者自立支援法の制定)						ヘルパー必携編集委員会の設置 愛知県共同募金会から受配決定 一五周年集会記念事業の実施 (会員 八四市町村 三七一名) 第六代会長 水野菊代氏就任 東海北陸ホームヘルパー研修会愛知県開催 二〇周年記念事業の実施 (会員 八七市町村 二施設)						愛知県家庭奉仕員連絡協議会一〇周年記念総会の開催 (一〇周年記念誌の発行) (会員 六四市町村 一四四名) 第五代会長 森 允子氏就任 事務局を愛知県社会福祉協議会に移設 役員の相互分担制と委員会制度の導入 名称を愛知県ホームヘルパー連絡協議会に改称、市町村委員制の導入 全国ホームヘルパー協議会に加入 東海北陸ホームヘルパー研修会愛知県開催						愛知県家庭奉仕員連絡協議会設立 初代会長 児玉 操氏就任 (会員 四五市町村 一二一名) 機関誌「つと い」創刊 第二代会長 安藤スキエ氏就任 全国ホームヘルパー協議会設立 第三代会長 柴田敏三氏就任 第四代会長 河合美代氏就任						愛知県ホームヘルパー連絡協議会 50周年のあゆみ

※介護保険法・介護報酬は3年ごとに見直しあり

令和7年度 被 頭 彰 者

会長 感謝

おめでとう
ございます!



社会福祉法人岡崎市社会福祉協議会

田中 広子 様

社会福祉法人一宮市社会福祉協議会
いちのみや指定訪問介護事業所

森 祐代 様

社会福祉法人一宮市社会福祉協議会
いちのみや指定訪問介護事業所

加藤 康子 様

社会福祉法人西尾市社会福祉協議会
ホームヘルパーステーション

寺西 幸恵 様

社会福祉法人一宮市社会福祉協議会
いちのみや指定訪問介護事業所

鵜飼 奈穂子 様

社会福祉法人東海市社会福祉協議会

上野 正子 様

愛知県ホームヘルパー連絡協議会 つと い 第100号

住 所 名古屋市中区白壁一丁目50番地 愛知県社会福祉会館内

TEL (052)212-5502 FAX (052)212-5503

発 行 令和7年11月

編集・発行 愛知県ホームヘルパー連絡協議会 広報委員会

この冊子は愛知県共同募金配分金で作られています。

